

熊本県立第二高等学校 平成26年度学校評価表

1 学校教育目標
本校の三綱領「自主積極・廉恥自尊・礼節協調」の具現化に努め、知・徳・体の調和のとれた全人教育を推進する。また、これまでの教育方針に基づき、教職員が一体となって保護者や地域との連携のもと、県民の期待に応え、活力がみなぎる存在感のある学校づくりをめざす。

- 2 本年度の重点目標
(1) 学力の向上～生徒が楽しみにする授業展開、読解力・論理的思考力の育成、自学力の育成
(2) 個性の伸長～部活動・生徒会活動の活性化
(3) 豊かな心の育成～規則正しい日常生活の励行、礼節指導の徹底、読書活動・学校行事の充実、体験活動・ボランティア活動の充実
(4) 国際感覚の育成～姉妹校、県内高校留学生等との交流促進
(5) 人権意識の高揚～人権教育の徹底・充実、一人一人を大切に教育の充実
(6) 理数教育の充実～SSHの推進・充実、科学的能力を身につけるためのカリキュラム・指導法の研究、本県中核拠点校としての在り方についての研究

Table with 5 columns: 評価項目 (Evaluation Item), 評価の観点 (Evaluation Perspective), 具体的目標 (Specific Objectives), 具体的方策 (Specific Strategies), 評価 (Evaluation), 成果と課題 (Achievements and Issues). Rows include categories like 学校経営 (School Management), 学習習慣 (Learning Habits), 学力向上 (Academic Improvement), etc.

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:やや不十分 D:不十分

4 学校関係者評価
学校関係者評価委員からは、次のような意見があった。
○学校評価アンケート結果からも、生徒・保護者が第二高校の教育活動を高く評価していることが窺える。地域の高校として、誇らしく思う。現在の教育活動を継続し、さらに発展してほしい。
○いじめ防止や人権教育にも熱心に取り組んでほしい。更に心の教育を進めるために子育て支援サークル等と連携し、赤ちゃんとふれ合う機会をつくるなど「命の大切さ」を実感できる取組を実施されるとうよいではないか。
○スマートフォン使用について、家庭内ルールを作ろうと呼びかけているが、それが5割に止まっている。この点については学校とPTAが連携し、PTA総会等を通じて、保護者から家庭へ向けての啓発力を注いでいく必要があるのではないかと。
○SSH研究発表会では生徒たちが自主的に活用している様子が見られ、その発表のレベルの高さに感動した。3年間を見通した計画的な指導のもとで行われている成果だという印象を持った。
○熊本東警察署と連携した生徒会O.C.A.T.(Cycle Assist Team)の活動や三重ロック点検、自転車マナー向上など交通面での啓発に取り組んで頂き大変有り難い。またSNS関連のトラブルなどにはサイバー犯罪被害窓口も設置しているため、外部機関(熊本東警察署)としても生徒の安全を守るために協力していきたい。

5 総合評価
本年度の重点目標6項目(「学力の向上」、「個性の伸長」、「豊かな心の育成」、「国際感覚の育成」、「人権意識の高揚」、「理数教育の充実」)について、上位のとおり自己評価、学校関係者評価から、その目標は概ね達成できている。特に、学校関係者評価においては、学習指導、進路指導、生活指導を中心とした本校の教育活動について、高い評価を得た。また、2学期に実施している生徒、保護者による学校評価アンケートでは、昨年度までと同様に本校に対して好意的で且つ生徒、保護者共に高い自負心を持っていることが窺えた。
今後も、生徒一人一人を大切に教育活動を積極的に推進し、教師、生徒、保護者、地域一丸となった「チーム第二」として全力で取り組んでいく。

- 6 次年度への課題・改善方策
○本校の目指す生徒の実現に向けて、更なる授業力の向上とともに、生徒の論理的思考力及び表現力等の育成に向け教育活動の充実を図っていく。
○学習習慣の確立を促す指導の充実を図り、生徒がこれまで以上に自主的に学ぶ態度を育成し、社会の変化に対応できる能力の育成を目指す。
○SSH事業の更なる充実・普及・拡大を通して、本校並びに県全体の理数教育の充実を図る。
○生徒の安全・安心を守るために、スマートフォン使用については、生徒の自覚を促すと共に保護者と連携したルール作りを目指す。また交通面では生徒会を中心として自転車運転マナーの更なる向上を図る。
○家庭や地域社会、関係機関等との連携を強化し、信頼される学校作りを目指す。